

禅の風が通る場所

瑞應寺のこと

別子鉱山の銅の積み出し港として発達した愛媛県新居浜市、私が初めに修行に入った仏国山瑞應寺専門僧堂はここにありますが。福井県の大本山永平寺や鶴見の大本山總持寺より小さい総勢二十名弱の修行道場です。全国から、世界から集まる、幅広い年齢層の修行僧と修行を共にしました。



各々年齢や生い立ち、思いの違いはあっても仏の御命のもと、厳かに導き合い、慎み深く対等に修行をする道場は活性を生みました。質素であっても同修同証の因縁を喜び合うのが修行道場です。同修同証とは、お釈迦様や達磨様の修

行と同じように、例えば坐禅することでお釈迦様や達磨様と同じ悟りを得ることです。

根幹をなす修行は坐禅です。坐禅は一回四十分程。僧堂という静かな場所に集まって坐禅をします。坐禅に集中できてない人は、警策という細長い木の棒でお袈裟のかかっている右肩を打たれます。私は数え切れない回数に警策をいただいています。(打たれています)

修行は坐禅・掃除・読経・食事・風呂・トイレ・寝ることまで、生活のすべてです。私には当時も今も修行になぜという問いはありません。しかし、今考えて見ると一つ一つの修行には、思い出に迷わない広い心がありました。それが「仏法

僧」という、仏・仏の教え・教え在る僧侶、この三つの宝を敬う心です。どのような時代でも仏法僧の三宝を敬い礼拝する場所には禅の風が通っています。

このようなお釈迦様の言葉があります。「まことに、仏に会うことが難しく、その教えを説く人に会うことも難しく、その教えを信ずることとはさらに難しい。いま、会い難いこの教えを説く人に会い、聞き難いこの教えを聞くことができたのであるから、この大きな利益(りやく)を失わないように、仏を信じ喜ばなければならない。」

一緒に修行した仲間たちの坐禅の姿は大きな利益です。この同修同証の因縁を信じ喜び、瑞應寺を後にしました。雲泉寺恭真



禅 風

仏事の知識

開眼供養

開眼(かいげん) 供養とはお仏壇、お墓、お位牌を新しく求めたときに行う法要です。仏の魂を迎え入れることで精入れ、魂入れなどとも呼びます。眼を書き入れることで、仏が宿るとされている。古くは一三〇〇年前の東大寺の大仏完成のとき行われたと言われています。お仏像も魂を入れないものはただの置物に過ぎません。この儀式を済ませて初めて礼拝の対象となります。お墓の場合は建てた後、納骨法要と併せて行うのが一般的です。期日には決まりがありませんが、大概年忌法要に当たる年、お盆、お彼岸に合わせて供養しています。また、墓終いをするとき、仏壇の塗り直しや処分するときには「開眼供養」をして宿っている仏様の魂を抜く必要があります。その後お墓は石屋さんに解体してもらい更地に戻します。お仏壇は仏壇屋さんをお願いして引き取ってもらいます。

仏事の知識QRコード ↓



●曹洞宗公式ホームページ

<https://www.sotozen-net.or.jp/>

●曹洞宗禅ナビ(寺院ポータルサイト)

<https://www.sotozen-navi.com/>